

2023 年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）報告書

学校法人 愛真幼稚園

1. 本園の教育目標

幼子が神から与えられた自然の中で、「あそび保育」を通して、豊かな感性、観察力、創造性、社会性を身に付け、成長していく手助けをする

2. 本年度の重点目標

自分の行動を自ら考え、自分を表現する力を育む

3. 評価項目の達成状況および取組み状況と結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価項目	評価	取組み状況・結果
園児一人一人の自発的な遊びの中で、生きる力や社会性を身に付ける保育を展開する	B	園児一人一人の運動能力や体力を見極めて遊びを見守り、園児が友達と協調して行動できる環境を作った。園児が自分の気持ちを素直に表しつつ友達と遊びを共有し、一人一人が自分で考えて行動するようになった。しかし、園児一人一人が友達の気持ちに気付こうとするまでには至らなかった。
園児がのびのびと安心して遊べる環境を作る	B	園児の発達段階に応じた多様な遊具等を園庭に設置し、その破損や不具合を定期的に点検した。園児が園庭にいる時は複数かつ十分な人数の教職員で見守った。園児が園庭を思い切り走り回るなど、友達と一緒に運動したり、新たな遊びを工夫したりするようになった。
山や川、畑などで自然に親しみ、健康な心と体を成長させる	B	園外保育の実施にあたって担任等の教職員が必ず下見を行い、注意が必要な場所については写真や動画で情報共有するとともに、対策を含めて保護者に事前に周知した。園児が園外保育を楽しみながら自然に対する興味を高め、逞しい心と体が成長した。さらに、自然を愛し、大切にしようと思う心が育つように努めたい。
家庭との連絡を密にし、園での様子を情報発信する	B	スマホアプリを用いて家庭への連絡をこまめに行い、園児の様子を写真や動画で配信した。また、園児の体調不良やケガ等があれば保護者に連絡した。園での様子を保護者の安心感が得られ、家庭とのコミュニケーションがよく図られるようになった。多くの教職員が効果的な情報発信を担当できるように、研修の機会を設けたい。
通園バスの利便性を高め、安心・快適な運行を確保する	A	乗車確認名簿を用いて園児の乗降を確認し、出欠等を担任や教職員と情報共有するとともに、園バスに置去り防止装置や車内外モニタ等を設置して安全確保を充実させた。また、運行状況をリアルタイムで保護者に伝えた。園バスとの連絡や確認がし易く、バス停での待ち時間が短くなって、保護者の安心感も高まった。
園の安全管理体制を充実させる	B	危機管理マニュアル等を整備し、継続的に見直した。ヒヤリハット事例は直ちに情報共有し、職員全員が安全管理研修を受講した。園児の体調不良等への教職員の対応がスムーズになり、安全意識も高まった。ヒヤリハットの発生頻度が低下するように更に努めたい。

4. 総合的な評価結果

評価 A: 達成している B: 一部達成している C: 一部改善を要する D: 改善を要する

評価	理由
B	本年度の重点目標「自分の行動を自ら考え、自分を表現する力を育む」に関連する項目を中心に、家庭との連絡や通園バスの安全性・利便性、園の安全管理体制について評価を行った。保護者アンケートの結果は概ね良好であったが、教職員による自己評価では達成できていない取組指標・成果指標も確認された。教職員の研修等や日頃の実践を通してさらに研鑽を積み、保育の質の向上を図る重要性を確認した。

5. 今後に取り組む課題

課題	具体的な取組み方法
自然保育	自然を愛する心と逞しい体を育むために、園児の成長に合わせた園外保育について研修し、計画・実施方法等を学ぶ
特別支援教育	園内における特別支援教育の体制を整備し、行動分析やアセスメントの結果を教職員で共通理解してチーム保育を進める。
子育て支援	未就園児のためのプレイルームやイベントを充実・発展させ、子育て相談など地域の未就園児親子への支援を拡充する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

自然の中での園外保育や、豊かな自然を利用した園庭で友だちと過ごせる愛真幼稚園。保護者アンケートであがったように、学年により園外保育の時間に差があったため改善していただくと有難いです。取組み状況にもありますように、園バス通園における乗車時間を40分程度に収まるように検討お願いします。今後も子どもたちを思い、新たな試みに挑戦しながら、保育内容を工夫していただければと思います。

学校関係者評価委員 川口 恵

学校関係者評価委員 山添真理子

学校関係者評価委員 廣川 理沙

学校関係者評価委員 佐々木早苗

学校関係者評価委員 石橋 綾

委員会実施日 2024年2月5日

2023年度 学校評価（第三者評価）委員会 報告書

保護者アンケート結果、学校評価（自己評価）の総括表及び学校評価（自己評価・学校関係者評価）報告書、並びに「愛真だより」等の配布物や諸資料を踏まえ、2024年3月13日に学校評価（第三者評価）委員会を開催して実施した評価結果を報告します。

【安心・安全な園づくり】

重点項目の1つである「安心・安全な園づくり」において、危機マニュアルの整備等の安全管理体制の充実や、通園バスの安全確保の充実、家庭との連絡を密にするための情報発信等、出来る限りの努力と最新機器も活用した工夫を凝らした取り組みを実践しておられ、保護者からも肯定的評価を得ておられることについて、高く評価します。また、保護者さんの子育て支援のニーズが多様化するなかで、園での様子を細やかに情報発信して家庭との連携を図られ、ニーズのひとつひとつに真摯に向き合い丁寧に対応しておられる姿勢には、敬意を表します。

【特色のある教育目標】

超少子化が進み、保護者さんの働き方も変化するなかで、幼稚園の存在意義を示していくためには、愛真幼稚園としての特色のある教育目標をさらにアピールしていくことが必要ではないかと考えます。選ばれる幼稚園としてあるためには、愛真幼稚園だからこそ育つ子ども像がより明確に具体的に示され、それが達成されているかといった観点からの評価がさらに求められるのではないかと考えます。また、そうした教育の実践を担う保育者の、保育者としての成長ややりがい、保育者間の連携、研修の機会等についての評価の観点も、よりよい保育実践をさらに高めていくうえで大切ではないかと考えます。

【ティーム保育】

教育目標達成に向け、「ティーム愛真」として協働して取組む教師集団のミッションが重要です。園のすべての子どもを全職員で保育するという心構えで、すべての子どものことを全職員で共有して保育内容・方法を考え、実践していけるような、保育のことを語り合う機会がもてると、教師集団の働き甲斐や協働実践の意識が高まり、さらなる保育の質の向上につながると思います。とくに、「今後に取り組む課題」にあげられている「特別支援教育」においては、「ティーム保育」が重要になってくると考えます。

【教育実践の記録】

園経営全体を見渡し、年度毎に力を入れて取り組む教育研究実践テーマを定められているものと考えます。テーマ追求・達成の年間計画を立て、全職員が目標・計画の共通理解の下、協働して教育実践に取り組まれていることでしょう。そこで、教育実践の積上げと改善工夫、

実践の経過・推移を記録し、写真や資料・データを含めて実践レポート・実践論文としてまとめられることを提言します。園の教育成果を今後の保育に生かせる資料として残すことが重要です。

【未就園児向けプレイルームの情報発信】

今後の計画として、未就園児のプレイルームの充実・発展に重点をおかれることが示されていました。ホームページを拝見すると、開催日がいつかは分かりますが、各開催日の具体的な内容が示されていないようです。季節ごとの取り組み、その日の特別なイベントなどの具体的な内容がアピールされると、楽しみに参加していただけるのではないかと思います。

愛真幼稚園 学校評価（第三者評価）委員

元鳥取市立小学校長 安治 紘紀

鳥取大学地域学部教授 寺川 志奈子